



## 薬剤部

高度医療を提供する特定機能病院として、群馬大医学部附属病院薬剤部は、有効で安全な薬物療法の提供、医薬品の適正な使用の推進をはじめ、次代の医療をリードする薬剤師の育成にも力を入れている。薬剤部長の山本康次郎教授は「地域で活躍する人材を育てながら、職種の垣根を超えた連携を進め、最善の治療に当たっている」と力を込める。

外来と入院患者の処方薬を休む間もなく取りそろえる薬剤師

# 最善の治療導く 「薬の専門家」

オーダーメイド  
で製剤

薬剤部に所属する薬剤師は約60人。院内の飲み薬や注射薬は2400種類に上り、業務は多岐にわたる。処方箋の内容が適正かを、処方監査、調剤、最終鑑査の3段階で確認作業を進めている。入院患者に対して注射薬を取りそろえる機械を新たに導入し、業務の効率化や薬品の取り間違い防止につなげている。

医薬品情報管理部門(DIセンター)が収集・解析した新薬情報を各診療科に提供している。全病棟に薬剤師が常駐し、適正な薬物療法を進める。服薬指導にとどまらず、治療前から患者の病態を確認し、「薬の専門家」として最善の治療方針に導いている。

市販薬で効果がない患者やがん患者など、一人一人の状態に合ったオーダーメイドの薬を製剤。患者の体内の薬物濃度の変化を調べ、個人差がある薬を排せつする力を把握し、適正な投与量を見極める。

がん患者が日常生活を送りながら治療できるよう、2003年に「外来化学療法センター」を開設。抗がん剤の調製を行っており、病床数当た



薬剤部の役割について語る山本教授

りの化学療法の外来患者数は全国でも多い。さらに、医薬品の発注から納入、在庫管理や使用量の把握などの管理も行う。今後、新型コロナウイルス感染症のワクチンが承認されれば、冷凍保存といった品質管理にも携わることになる。

最善の医療を提供するために、多職種連携によるチーム医療が必要で、薬剤師の役割は大きい。生命の危機に瀕した重症患者の治療を行う集中治療部(ICU)では、注射薬の調製や抗菌薬といった薬剤の選択、投与量など薬剤師の知識が求められている。

チーム医療で  
対応

感染制御チームでは、感染症専門医と抗菌薬の適正使用について検討を進める。院内感染や抗菌薬が効きにくい耐性菌の発生を防ぐ対策もしている。主にがん患者や家族に対する緩和ケアチームでは、麻薬を使った鎮痛薬の投与設計や副作用の対応、精神的なケアにも努める。また、栄養サポートチームでは、疾患に合わせた最適な栄養療法を提案する。災害派遣医療チーム(DMAT)として被災地での活動も展開している。

地域で活躍する  
人材

医療活動のほかに力を注いでいるのが人材育成だ。地域で活躍する薬剤師のリーダーを育てることを目的に、13年度からレジデント制度を導入。新人教育の一環で、大学卒業後の2年間の教育プログラムを設け、薬剤師として働きながら基礎を身に付けている。



薬剤師が日々変わる入院患者の状態に合わせて抗がん剤を調製する

少人数グループでの研修で、1年目は調剤部門(内服・注射・外用)を基本に、各部門を経験。2年目は各病棟の入院患者に対する薬物療法の管理を行い、より実践的な知識を深めている。

臨床研修のほか、専門薬剤師の資格取得の支援や研究活動、勉強会、海外の薬剤師や留学生との交流などを通じて多角的な視野を持った人材を育てている。

山本教授は「地域医療を担い、医療安全を継続するためには人材育成は重要。薬のことで不明な点や不安なことがあれば気軽に薬剤師に相談してほしい」と呼び掛けている。

理念「大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る」

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。  
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。  
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。  
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。



群馬大学医学部附属病院

前橋市昭和町3-9-15 TEL.027-220-7111(代表)

<https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>